

「Dogs 7days」短編版」

ジヨン♂(8)ミニチュアピンシャー

マックス♂(4)ビーグル

リリイ♀(4)ウエルシュコーギー

チャコ♀(12)トイプードル

ビート♂(7)ボーダーコリー

レオ♂(15)ミニチュアシユナウザー

シヨコラ♀(6)マルチーズ

ナナ♀(3)チワワ

エルビス♂(6)ダルメシアン

舞台は、郊外にある動物愛護センターの檻の中。

舞台上手奥に鉄柵の扉があるという設定。

ゴウン、ゴウンという機械音。

明りがつくと、ジョンと、マックスが胸倉をつかみ合っている。上手奥にあらぬほうを向いて、澄ました顔のチャコ。

ジョン
なんだ、君は。いきなりつかみかかってくるなんて失礼じゃないか。

マックス
ここはどこだって聞いてんだよ。何も答えねえから、つかみかかっているんじゃないか。

ジョン
私だって、ここがどこだか知りたいよ。何なんだ、いったい。私を急にこんな狭苦しいところに放り込んだりして。

マックス
まったく。いきなり車に乗せられたと思ったら、次はこの檻の中だ。俺がいったい何をしたいというんだ！

ジョン
まあ、少し冷静になろうじゃないか。どうして、

こんな息苦しいところに閉じ込められているのか、冷静に考えようじゃないか。

マックス おっさん、冷静になんて考えてる場合じゃねえ。

ここはおかしい。普通の場所じゃない。何か聞こえるだろ。大きな機械がゴウン、ゴウンと動く不気味な音が。

ジョン 確かに。

マックス 何か恐ろしいものが迫ってきてそうな嫌な音だ。

ジョン こんなところからは早く脱出したほうがいい。

マックス そうだよ、やっと気付いたか、おっさん。

ジョン おっさんはやめなさい。私だってねえ、ちゃんと名前があるんだから。

マックス わかったよ、おっさんじゃかわいいそうだから、聞いてやるよ。

ジョン ジョン。俺はジョンだ。

マックス 俺はマックス。よろしく。

ジョンとマックス、お尻の匂いを嗅ぎ合う。

チャコが、近くにやってくる。

チャコ　私は、チャコ。よろしく。

ジョンと、マックス、チャコのお尻の匂いを嗅ごうとする。舞台を駆け回る三匹。

チャコ　やめて！ 私、お尻の匂いを嗅がれるのは嫌いな
の！

ジョン　（マックスに）挨拶の基本じゃないか、なあ！
マックス　そうだ、挨拶だ。

チャコ　だから、その挨拶がいらないうって言うてんのよ。
発情してんじゃないわよ。このオスどもが。

マックス　ふざけんな、ばばあ。お前に発情なんてするわけ
ねえだろ！

チャコ　ばばあ！？ このビューティフルなあたしに向か
って、公然とばばあ！ 訴えるわよ！

ジョン　マックス言い過ぎだろう。いくらそうだと
して
も。

チャコ ジョン、あなた、ジョンって言ったわよね。あん
たも訴えるわ。

ジョン (チャコに) 私はこれでも、いま、あんたをフォ
ローしたつもりなんだけどね。

チャコ フォローになってないわよ、全然！

ジョン 好きにしろ、挨拶はいい。

ジョン、マックス、チャコから離れる。

チャコ、二匹に触られたところを手で払っ
ている。

チャコ、潔癖に近い綺麗好き。

ジョン しかし、参ったな。柵と壁に囲まれている。しか
も出口は奥に一つだ。逃げられそうにないな。

マックス これじゃあ、罪人みたいじゃないか。

チャコ 私たちは何も悪いことなんてしてないでしょ。

マックス じゃあ、どうしてこんなところに入れられなきや
いけないんだよ。主人がちゃんと俺をつないでお
かないから、こんなことになってるんだ。

ジヨン　　なんだ、君は主人の家から抜け出してきたのか。

マックス　新聞配達の兄ちゃんが来て、必死に吠えてたんだ。そしたら、首輪が抜けてさ、そのまま出てきちゃったんだ。

ジヨン　　そりゃあ、自業自得ってやつじゃないか。抜け出して来た君が悪い。

マックス　首輪が外れたんだよ。主人がすっかりつないでおかないからいけないんだ。

チャコ　　それで、外をほっつき歩いているところを捕獲されたというわけか。

マックス　まあ、そんなところ。っていうか、そのまんま。そりゃ、自己責任だわ。でも、いいじゃない。それだったら、飼い主が迎えに来てくれるでしょ。

私の大事なワンちゃんはどこに行ったのかって必死に探してるわよ、きつと。

マックス　　どうか。俺は噛み癖があって、ずいぶん主人を悩まして来たから。

ジヨン　　（マックスに）初対面の僕にいきなりつかみかってくるんだ。ずいぶん威勢がいいと思ったよ。

チャコ (マックスに) レディーの気持ちも考えないで、

お尻の穴、嗅ごうとするのはやめてほしいわね。

マックス あんたらはどうしてここに運び込まれたわけ？

ジョン それは、あれだよ。やむにやまれぬ事情があつて
というやつで……。

チャコ そう、どうにもならないことつてあるもんよね
え。

マックス もしかして、捨てられてきたとか？

ジョン ……。

チャコ ……。

マックス 凶星だ。なんだ、あんたら脱走したんじゃないか
て、捨てられたんだ。捨て犬つてやつだ、要する
に。

ジョン 捨て犬だろうが、なんだろうが、ここに連れて来
られたことに違いはないじゃないか。

マックス そうか、捨てられたんだ。こりゃ、笑えるわ。

チャコ マックス、あんたねえ、出会って間もない相手に
対して、それは失礼なんじゃないの。笑えないわ
よ、全然。

マックス 忠実にご主人さまに仕えてきたのに、捨てられたんだ。これが笑わずにいられるかよ。

上手から、リリイ、ビート、ナナが現れる。

マックス 新入りか。

ジョン ようこそ、犬の楽園、パラダイスランドへ。

チャコ ちよつと、ちやかすのはやめなさいよ。

ジョン ちよつとでも重い雰囲気振り払おうとしてるんだ。

リリイ あの、いったい、ここは？

マックス、リリイに近寄って、

マックス 面白いだろ。鉄柵と壁に囲まれてる。扉は奥につ。刑務所みたいだが俺たちは人間じゃない。何の罪もおかしてない。なのに、こんな狭い場所に閉じ込められてる。

リリイ あの、あなたは？

マックス 俺は、マックス。そことそこにいるのが、俺と同じ先住民のジョンとチャコだ。犬種の説明は省く。そこいらの雑種だ。

ジョンとチャコ、あきれた表情。

マックス (リリイに) 君の名前は？

リリイ 名前？

マックス そう、君にもご主人様がいるだろう。

リリイ リリイ。

マックス リリイか。見たところじゃコーギー犬だね。

ビート (手を挙げて) 僕はコリー犬のビート。回るのは得意だ。

ビート、その場でくるくると回り倒れる。

ナナ 私はナナ。チワワのナナです。

マックス ナナちゃんか。俺はビーグルのマックス、よろし

く。

キーンコーンカーンコーン、とチャイムの音が聞こえる。

ビート 何の音だろう？

リリィ 学校のチャイムと同じ。この音が聞こえて、しばらくすると、ご主人さまの子供たちが帰って来るの。

ジョン 時間の合図か。

チャコ 柵の向こうの窓からかすかに陽の光。まだ夜まであるわ。

上手から、レオが現れる。

レオ、ジョンたちに一礼したあと、檻を見回す。

ジョン (レオに) あれっ？

レオ (ジョンをみつけて) まさか、こんなところで君

に会うとは思わなかったな。

ジョン

レオじゃないか。こんなところで何やってるんだ？

レオ

そういう君こそ何やってるんだ？

レオ、周囲にいる犬たちを見る。

レオ

私はね、前に一度、ここへ来たことがあるんだ。

マックス

来たことがある？

レオ

そのときはご主人の家族が迎えに来てくれたがね。

ナナ

あの、何か知っていたら教えてください。

レオ

……。

ジョン

レオ、あんたと私の仲じゃないか。平和塔公園で、あんたはよく私の遊び相手をしてくれた。

レオ

ジョン、君はどうして、ここへ運ばれたんだ？

ジョン

……。

レオ

なぜ、黙る？

ジョン

捨てられた……。

レオ　私は君の主人を知っている。ずいぶん、君のことを可愛がっていたじゃないか。

ジョン　仕事が出来なくなったらしい。うちの主人は会社の倒産という災難に遭遇した。

レオ　それで捨てられたのか？

ジョン　理由はわからないが、山の中でキャリアから出された。こんなことは一度もなかった。

ジョン、さりげなくレオの横に座る。

ジョン　（小声で）レオ、僕だけに話して。

レオ　何だ？

ジョン　これからどうなる？

レオ　聞いて、得することはない。

ジョン　知りたいんだ。何も知らずにいることも不安だ。

レオ　……。

ジョン　人間だって、最近ははっきり、余命の告知を医者がするそうじゃないか。この先に何が待っているのかは、何だか想像がつく。

レオ だったら、その想像通りだと言っておくよ。

ジョン 俺たちは、殺されるのか？

レオ ……七日は平気だ。七日目までは待ってくれる。

ジョン 八日目は？

レオ 7日目より先の道は、私たちにはない。

ジョン ありがとう。よく教えてくれた。

レオ でも、みんなには内緒に。知らないほうがいい。

ジョン でもレオはなぜまたここに？

レオ 私の主人は病気で体調を悪くしたとき、私を捨てた。そのときは何とか私を迎えに来てくれたが、

最近、介護が必要になった。そんな家族が、私の

ような、老犬の世話は無理だ。

ジョン 自分で出てきたのか。

レオ そうだ。

上手からシヨコラ、エルビス、現れる。

シヨコラは温和な雰囲気。

エルビス、冷静で寡黙な雰囲気。

エルビス なるほどね……。

シヨコラ あらっ、お仲間がいっぱい。

ジョン (無理やり元気に) いやあ、ようこそ。この犬の楽園、パラダイスランドへ。

エルビス (冷めた口調で) パラダイスランド？

シヨコラ よろしくお願いします。

ジョン いやあ、あなたがたは運がいい。ここにいる仲間たちは心優しく、楽しい連中ばかりです。順に紹介しましょう。まずは噛み癖のビーグル犬、マックス！

マックス、舞台前に出て来て、かっこつけたポーズ。

ジョン 次は、中年トイプードル、チャコ。

チャコ (髪を後ろにはらって) よろしく。

ジョン お次は、おちゃめなコーギー犬、リリイ！

リリイ、西洋の貴婦人の挨拶。

ジョン

そして、このパラダイスランドの生き字引（じびき）、ミニチュアシユナイザーのレオ！

レオ、控え目にお辞儀をする程度。

ジョン

そしてクライマックスは、このパラダイスランドのピチピチアイドル、チワワのナナ！

ナナ、軽くポーズを取って、ウィンク。

ジョン

そして、ラストはわたくし、ミニチュアピンシャ
ーのジョン！

ジョン、胸に片腕をかけて、西洋の紳士の
挨拶。

ビート、ジョンに必死にアピールする。

ジョン

忘れてました、もう一匹。駒のようにくるくる回る
コリー犬、中年元気のビート！

ビート、その場でくるくると回って、倒れる。

ジョン 以上、パラダイスランドの挨拶ショーでした！

エルビス、進み出て、

エルビス (冷めた感じで) ダルメシアンのエルビスです。

よろしく。

シヨコラ (笑顔で) マルチーズのシヨコラです。よろしく
お願いします。

レオ どうやら、こここのボスはジョンだな。

ジョン えっ、私が？

全員うなづく。

チャイムの音が聞こえる。

レオ (エルビスとシヨコラに) きっと、君たちで最後
だろう。もうすぐ夜になる。

暗転

4日目。朝。

チャイムの音が響く。

レオ

今日で、4日目だな。

コツコツコツと足音が聞こえる。

足音に耳を澄ます犬たち。

全員、緊張した面持ち。

足音が止まる。

ビート

誰だ、こっちを見てるぞ。

チャコ

あたしのご主人様じゃないわね。

ナナ

私も違う。

リリイ

私も。

しばらく前をみつめ続ける犬たち。

ジョン　おいつ、誰かの飼い主じゃないのか？

レオ　違うな。

マックス　見たことがない人間だ。

エルビス　おれも知らない。

シヨコラ　私のご主人様じゃない。

ジョン　誰だろ？

リリイ　あっ！

檻の前から、コツコツと足音が遠のいていく。

ジョン　誰の飼い主でもないのか？

一同　……。

ジョン　まあ、気長く待とう。時間はまだある。

マックス　ああ、もう面倒くせえ。みんなどう思ってたんだよ。

本気で全員助かると思ってるのか？　思っていないだろ。ごまかすのはやめようぜ。

ジョン　ごまかすって何だい？

マックス　はつきり言う。全員は助からない。俺たちはきつ

と殺される。

リリイ　　なんで殺されなきゃいけないのよ。

マックス　　全員を助ける余裕が人間にあるとは思えない。一匹でさえ、まともに飼えずに捨てる人間がいるのに、これだけの犬をどこの誰が飼うんだ？

レオ　　（マックスに）少し落ち着くんだ。希望はあるんだ。

マックス　　やっぱりあんた何か知ってるんだろ。本当のことを俺たちに教えろ！

ジョン　　今日は雨が降りそうだなあ。鼻がムズムズする。

マックス　　だから、そうやって、とぼけんなよ！

チャコ　　いったい、私たちに何が起こるの？

レオ　　聞かないほうがいい。

チャコ　　聞かせて。

レオ　　聞かないほうがいいんだ！

シヨコラ　　聞かせてください、本当のこと。

レオ　　まだ時間はある。

マックス　　いつまであるんだ、俺たちの時間は？

レオ　　……。

ジョン
知らないほうがいい。そのときはいつかやってきて、あつという間に終わる。そのほうがいい。

ビート
卑怯だな。同じ檻に入れられた仲間だっていうのに、一番大事なことは僕たちに話さず秘密にしておくのか？

ジョン
そのほうがみんなのためだと言ってるんだ！

チャコ
みんなのためじゃない。自分のため。みんなに話したらそれが現実になってしまうから。あなたはただ自分が恐いだけ。

ジョン
違う……この4日間は地獄だ。知らないほうがいいこともある。

ビート
ジョン教えてくれ。あなただけが苦しむことはない。

ジョン
私はみんなが苦しむようなことは話したくない。
マックス
青臭いこと言ってんじゃねえ。俺は、現実を受け入れる覚悟はできてるんだ。

レオ
みんなはどうなんだ？ 聞きたくない者もいるんじゃないか？

一同
……。

リリイ 恐いけど、現実を知りたい。だって、そこからは逃げられないから。

シヨコラ 私も。

ナナ あたしも。

エルビス 聞こうじゃないか。

ビート 僕にも聞かせてくれ、ジョン。

ジョン 私が嫌なんだよ。みんなに話せば、それは現実味を帯びてくる。もっと間近に死が迫ってくる。

シヨコラ やっぱり、死ぬのね、あたしたち。

ジョン ……。

レオ 期間は七日。

ジョン 今日はもう、四日目だ……。

マックス やっぱり、そういうことか……。

レオ 言わなくてすまなかった。みんなのためだと思っただ。

リリイ ……そんな、嫌よ。私、死ぬのは嫌。

ビート みんなそうですよ。死にたい奴なんていないさ。

シヨコラ ご主人様が迎えに来てくれる、きっと。

レオ そうだ、まだ三日ある。きっと誰かは助かる。

エルビス

私は死ぬために、飼い主から離れたわけじゃない。

ジョン

慌てるな。まだ、希望はあるんだ。それを信じよう。

チャコ

残念ながら、あたしはその希望もないわ。

ジョン

チャコ、卑屈になったらだめだろう。

チャコ

ジョン、あたしはね、病気を持ってるの。白内障。あたしが捨てられる直前に新しい若いトイプードルが来たのよ。もう元気一杯で、若くて、病気もなくてね。あたし、必要なくなっちゃったみたい。

ジョン

チャコ……。

リリイ

シヨコラはどうしてここへ？

シヨコラ

気まぐれで外へ。一度くらい自由になってみたい、そう思ったの。こんなことになるなんて……。

コツコツと足音が聞こえてくる。

足音が檻の前で止まる。

チャコ 係員じゃないわね。

シヨコラ 誰だろう？

ナナ 私たちのこと、じっと見てる。

シヨコラ 自分の犬を探してるのかな？

マックス だったら、ここから出してもらおうぜ。

全員、立ち上がり、

一同 助けてくれ。ここから出してくれ！

コツコツと足音が遠のいていく。

ナナ 行っちゃった……。

レオ (ジョンに) おいつ、ジョン、いまのは君の…
…。

ジョン、レオの口を抑える。

ビート ちよつと、ジョン、あんた何やってるんだ？

ジョン
なんだかレオの長い毛を見ていたらイライラして
ね！

レオ
犬種が違うんだ。そんなこと言われても困る！

ジョン
表情がわからん！

レオ
しかし、君にとって、こんなに嬉しいことは…
…。

ジョン
いいから黙ってくれ！

ジョン、またレオの口を抑える。

ジョン
わかったか。わかったか、レオ！

レオ、口を抑えられたまま、何度も頷く。

ジョン、レオから手を離す。

ジョン
マックス、お前、どうして飼い主の元から離れた
んだ？

マックス
こんなことになるとは思ってなかったんだよ。

ジョン
新聞配達バイクに吠えるなんて、バカ犬の典型

的な例じゃないか。

マックス　ふざけるな。俺は俺で、いつでもご主人様に異常を知らせてただけだ。

ジョン　だったら、逃げるな、バカヤロウ！

マックス　逃げたんじゃない。追っかけたんだ。首輪はたまに外れただけだ。

ジョン　じゃあ、どうして、お前のご主人は迎えに来ないんだ！

マックス　それは、こっちが聞きたいよ！

ジョン　シヨコラ、君の飼い主は？

シヨコラ　大丈夫、私を今、探しているはずだから。絶対、大丈夫。

ジョン　遅いじゃないか。あと三日しかないっていうのに。

ジョン　ビート、君の主人もなぜ来ない？

ビート　実は、僕の主人は、うつ病なんだ。僕を飼う時から患っていてね、でも入院することになったんだ。僕の主人はここに現れることができない。

ジョン　……エルビス、君はどうなってる？

エルビス 迎えには来ないと思う。主人に俺への愛情はもうない。ジョン、君の飼い主は？

ジョン キャリーから出された時、僕は振り返って主人の顔を見たんだ。主人は、今まで見たことがない悲しい目をしていたよ。

シヨコラ だったら、助けてくれる可能性あるんじゃないですか？

ジョン その悲しい瞳が、僕を捨てた、という意味だろう。

チャコ 不思議よねえ。死が迫っているというのに不思議に冷静。最後ってこんなものかしらね。

ビート あと三日、どう過ごしていけばいいか……。

レオ 私はもうこの年だ。死が恐くないと言われれば嘘になるが、若い君たちよりも、あきらめがつく。しかし、君たちは……。

一同 ……。

チャコ もうやめましょ。助かるかもしれない仲間だっているわけだし。

ビート そうですね、深く考えてもね。

リリイ　そうそう、きっと死ぬときなんて、こんなものなのよ。

チャコ　あきらめついちゃえば、こっちのもんよね。

ナナ　あー、あと三日何しよう。天国ってどんなところなんだろう？

ビート　そうそう、人間は死ぬと極楽浄土というところに行くらしいね。

ナナ　でも、私たち、犬だけど……。

ビート　行けるさ。ここよりはいい場所に決まってる。

ナナ　だったら、早く死んじゃいたい！

ビート　あー、なんだかなナナちゃんと話したら、死ぬのも悪くないかなって思えてきたよ！

ナナ　おばあちゃん、私、先に行って待ってるね。

ビート　そうだ、君の飼い主は、すぐに天国に来てくれそうだ。うらやましいなあ。

ナナ　(投げやりに)えへっ！

ビート　(投げやりに)いひっ！

マックス　黙れ。ムカムカする。

ビート　そんなこと言われてもなあ、いいよなあ、君は助

かるかもしれないから。

ナナ　ほんと、うらやますいー！

マックス　そんなのわからねえだろ。

ビート　そしたら、一緒に天国行く？

ナナ　行く？

マックス　行かねえよ。こんなところで死んでたまるか！

シヨコラ　ねえ、ちょっと冷静になつて。

エルビス　そうだ、やけにならないほうがいい。

ビート　だったら、どうすればいいって言うんだ。僕は何のために生まれてきたんだ。こんな檻の中で死ぬためか。なあ、誰か教えてくれよ。

チャコ　みんな最後は死ぬのよ。何をやっても。

リリイ　楽しい思い出をもっともつと作りたかったかな
あ。

シヨコラ　ねえ、リリイはどうしてここへ来たの？

リリイ　……。

シヨコラ　ごめんなさい。余計なこと聞いちゃって。

リリイ　別にいいの。あたしも、捨てられたのよ。二年
前、ご主人様の家族がバラバラになっちゃって

ご主人様に引き取られたけど。お酒ばかり飲んで散歩にも連れていってくれないの。

エルビス ひどい飼い主だな。

リリィ でも、ご主人様の家族と行った沖縄旅行はいい思い出。丘の上から眺めた東シナ海。あの向こうには広大な大陸が広がっているって。

エルビス 広大な大陸かあ。どこまでも走っていけそうだなあ。

ビート そういえば、僕も一度、温泉に行ったことがある。犬用の栓（ひのき）風呂があってね、ご主人様と一緒に優雅な入浴タイムさ。あれは、いい湯だったなあ。

レオ 旅行か。私も一度は、経験してみたかった。

リリィ レオは旅行経験なし？

レオ ないねえ。ただ近所の公園に池があってね、そこに蓮の花が咲くんた。薄いピンク色の綺麗な花でね、私は明け方の公園でその蓮の花を眺めるのが、本当に楽しみだった。

エルビス 私は、ご主人と一緒にラスベガスに行ったことが

ある。ネオンがきらきらと光っていて、それはそれはまぶしかった。

チャコ 犬はギャンブルはできないでしょ？

エルビス そうなんだ。やってみたいけど、できない。

シヨコラ 通り過ぎただけ？

エルビス 私は、車の中でお留守番。あときは良かったんだけどなあ……。

ナナ うらやましい。海外旅行なんて。

チャコ ナナのご主人様はおばあさまだもんね。旅行には行かなかったの？

ナナ 旅行はなかったけど、私は、ソファアールの上でまったりしているだけで十分。そこでご主人様がハーブティーをすすする音を静かに聞いている。不思議と落ち着くのよね。

ジョン 何を幸せに思うかは、皆それぞれ違うもんだ。

チャコ あたしたち、こんなこと話してていいのかしらね、あと三日しかないっていうのに。

一同 ……。

レオ 話そう。話してなくちゃ不安ばかりが募る。考え

でも仕方がないことは考えないに限る。

ビート 何の話をしましょうかね？

シヨコラ 好きな食べ物とか？

ビート はい、キューリ。あれはコリコリしてて歯ごたえがよくて、ほどよい塩かげんが何とも言えない。

ナナ はい、あたし、ケーキ。ときどきおばあちゃん
が、分けてくれたの。イチゴも好き。

リリィ あたしは、リンゴ。シャキシヤキとした食感が好き。

エルビス ビーフジャーキー。

チャコ トマトよ。トマト。あの酸味が好き。

シヨコラ えーと、私は、たくあん。

ジヨン たくあんか。あれは一度、食べたが僕はだめだった。

レオ 私は何かなあ。あつ、さくらんぼ。あれはおいしかった。ほんのりとした甘みがいいね。

マックス ……。

ジヨン どうした、マックス。

マックス 好物がみつからない。どれもこれも、そこそこう

まい。かと言って特別うまいものもない。

ジョン　　ずいぶん、寂しいな。

マックス　　そういうあんたは何が好物なんだ？

ジョン　　僕は、チャーハンだ。

マックス　　チャーハン？

マックス　　食べたことがない。

ジョン　　それは、ちょっと損してるね。あんなおいしいものはないのに。

マックス　　食べてみたかったなあ、チャーハン。

シヨコラ　　人間はいろいろなものを食べるわよね。

エルビス　　人間の食べ物は、僕ら犬には有害だと聞いたことがある。

レオ　　塩分が強いらしいね。

マックス　　そうだ、俺、一つあった。味噌汁ぶっかけご飯。一度だけ食わされた。あれ、うまかったなあ。

ジョン　　味噌汁か。あれはしょっぱい。だめだ、食うもんじゃない。

マックス　　俺の好物にケチつけてもらいたくないね。

ジョン　　君にも食べさせてやりたかったよ。チャーハン。

ビート 食べるなら、キュウリだ。

エルビス ビーフジャーキー。

ナナ ケーキ。いちごが乗ってるやつ。

シヨコラ たくあんよ、たくあん。

チャコ トマトが一番よ。トマトが。

リリィ 絶対的にリンゴ。

ジョン チャーハンだ。チャーハンに決まってる。

マックス 味噌汁ぶっかけご飯。

レオ さくらんぼだ。さくらんぼ。

一同 ……。

レオ もう二度と食べられないかもしれないな。

マックス そういうこと言うなよ。気分が落ち込むだろ。

レオ 老いぼれのつぶやきだ。大して意味はない。

一同 ……。

マックス 何か話そうぜ。いろいろ考えちまうから。

ビート 楽しい話がいいですね。いい思い出というか。

チャコ そうね、こういうときは悪いことばかり考えちゃ

うもんだからね。

マックス いい思い出か。ありそうだけど、浮かんでこない

もんだな。

チャコ あたしはね、ご主人様を買ってくれた真紅のワンピースの思い出。背中におつきなりボンがついてね、そのリボンをふりふりさせながら、歩くのが本当に楽しかったの。おしゃれって楽しいのよね。

シヨコラ あたしのお気に入りは、ピンクのチェック柄フリルドレス。帽子まで付いてるのよ。ドレスは10着ぐらいあったと思う。

チャコ うらやましいわね、ご令嬢は。

シヨコラ ああ、家を出るなんて、なんて馬鹿なことしちゃったんだろう、あたし。

チャコ 宮殿から逃げ出して、牢獄に入れられたようなもんね。

マックス チャコはシヨコラに厳しいな。

チャコ マルチーズに負けるのは、トイプードルのプライドが許さないのよ。

ビート まあ、チャコさん、落ち着いて。

チャコ もう一度着たかったわ、真紅のワンピース。

ジョン

私はもう一度、若い頃に帰ってフリスビー大会に出場したい。ご主人様の子供とペアになって、参加したが楽しかった。一生懸命フリスビーを追いかけていたら、家族みんなで褒めてくれてね、あれは本当にうれしかった。

エルビス

いい思い出もあったのにどうしてこんなことになってるんだろうか。

ビート

辛いなあ。

チャコ

あなただけじゃないわ。ここにいる仲間、みんな。

マックス

明けない夜はないって、俺のご主人様はつぶやいてたけどな。

チャコ

夜のままってこともあるんじゃない？

一同

……。

ビート

誰か一匹でもいいから助かるといいですね。

シヨコラ

でも、あたし、みんなを置いて出て行くのも辛くなっちゃうかも。

一同

……。

ビート

あの、こうしませんか。もし、誰かがここから出

られることになったとしても、僕たちは恨ま
ない。その幸運を祝福するって。

ナナ うん、それいいかも。

レオ そうだな、みんなで祝福しよう。

ジョン、気まずい表情。

ジョン 実はみんなに話さなきゃいけないことがある。

ビート なんですか？

ジョン 実は、僕の飼い主がさつき、ここへ来た。

一同 ……。

チャコ おめでとう。良かったじゃない。

ジョン いや、それはそうなんだけど……。

リリイ おめでとう。

ジョン (控え目に) ああ。

シヨコラ 嘘！？ 私よりも先に出るわけ？

ジョン いや、君のご主人様も、きっと来るよ。

シヨコラ ごめん。なんだか泣きそう。私が一番最初に出
れると思ってたから。

ジョン　きつと大丈夫だよ。まだみんな三日もあるじゃないか。

レオ　ジョン、よかったな。

ジョン　（レオに）さっきはすまなかった。なんだか、みんなに悪いような気がして、それで黙っておいてもらった。

エルビス　さっきの人影があなたの飼い主だったのか。

ジョン　ああ、そうだ。

マックス　もっと喜べよ。ここから出られるんだから。

ジョン　……。

ビート　何かお祝いでもしましょうか？

チャコ　どんな？

ビート　胴上げでもしましょうか。ほらっ、野球って優勝すると、監督が胴上げされるんです。あれって祝福ですよ。

ジョン　いいよ。胴上げなんて。とてもそんな気分になれない。

ビート　でも、幸運は祝福するって言ったばかりだし。

ナナ　私、やってもいいですよ。

エルビス　　そうだな。みんなで胴上げして祝福しよう。

全員、ジョンの周りに集まってくる。

ジョン　　やめてくれ。それだけはやめてくれ。僕だけが助

かったって意味がないじゃないか。みんなが助か
らなきゃちつとも嬉しくない。

チャコ　　でも、みんなは無理なのよ。

ジョン　　どうして無理なんだ。どうして死ななきゃならな
いんだ。どうなってるんだ、世の中ってやつは。

マックス　　助かるんだから、いいじゃないか。

ジョン　　悔しいんだよ、私は。

一同　　……。

ジョン　　具合が悪くなった。少し横になるよ。

ジョン、寝転がる。

チャコ　　助かるっていうのに不思議なことね。もっと喜ん

だらしいのに。

ジョン どうすればいいか、わからないんだ。

マックス お別れだな、ジョン。

ジョン やめてくれ。

リリイ おめでどう。

ジョン おめでたくない。

エルビス 素直になりましょうよ。

ジョン 素直になってるさ。こんな状況で僕だけが助かる。みんなのことを思うと喜べるわけがない。

チャコ あのねえ、まだ三日あるのよ。まだ助かる子だっているわ、きっと。

ジョン 助からないやつもいる。

エルビス はっきり言いますね。

ジョン 現実なんだから仕方がないじゃないか。現実から目をそむけることはできないよ。これは現実だ。

夢を見てるわけじゃない。

エルビス そんなことは言われなくてもわかってる。

ジョン 僕の苦しさをわかってくれないから、はっきりと言わなきゃいけないんだ。いつそ、君たちのことを忘れられたらいいが、そういうわけにもい

かない。

チャコ 忘れるわよ、そのうち。私たちのことなんて。

ジョン 忘れないよ。忘れるわけがないだろう。

レオ 残されるほうも苦しいか……。

ジョン やっぱり、ここから抜け出そうじゃないか。みんなで方法を考えよう。

一同 ……。

ジョン 僕が出るときに、あの扉が開くはずだ。そのときにみんなだダダーっと逃げ出すんだ。

チャコ この檻から出たってまた連れ戻されるだけよ。

ビート 外に出れば、誰かが拾ってくれるかもしれない。

チャコ 可能性は限りなくゼロよ。

マックス そうだな。仲良くみんなであの世まで……。

レオ (マックスに) どうして君は、そういう毒を吐くかなあ。ここに來てからずっと思ってたんだ。君は言いたいことを言いすぎるよ。

マックス 言いたいことを言って何が悪いんだ。

レオ (マックスに) 君の一言で傷つく者もいるんだ。君だけが生きている世界じゃないんだぞ。

マックス　ここまで来て、説教かよ。将来もねえかもしれねえのに。

レオ　……。

シヨコラ　まだ少なくとも三日ありますよ。

ナナ　まだ死ぬって決まったわけじゃないし。

マックス　決まってるんだよ。

ナナ　えっ？

マックス　黙ってて悪かったよ。俺も脱走したわけじゃない。い。

一同　……。

マックス　俺の主人は転勤で社宅に入ることになった。結局、僕を飼えなくなっって、主人は僕を捨てた。捨てるしかなかったんだ。

ジヨン　新聞屋を追いかけて、出てきたんじゃないのか？

マックス　俺もジヨンと同じだよ。確かに、飼い主に裏切られたとは思いたくないもんだ。今までの記憶は！

温かかった思い出は！　尽くして来た苦勞は！

エルビス　マックス、落ち着いて。

マックス　ふざけんな、バカヤロウ！　こんな世の中、滅び

てしまえばいいんだ。人間は滅びるべきだ。悪いのは人間だ！

ビート　　そうだ、悪いのは人間だ！

マックス　全部、人間が悪いんだ！

シヨコラ　そんなことない。人間は悪い人ばかりじゃない。

私は運が悪くて、ここに來ているだけ。

マックス　迎えに來るとは限らねえだろうが。なあ、いつそ

のこと俺たちと一緒に死のうぜ。

シヨコラ　いやよ。

チャコ　　マックス、あんたなんてこと言うの！

マックス　もうどうでもよくなってきたんだよ、俺は。ここ

は、気が狂いそうになる。

ゴウン、ゴウン、ゴウンという機械音。

マックス　なんなんだ、この音は！　仲間たちを殺している音か？

レオ　　マックス、この音はそんな音じゃない。

マックス　そんな音に聞こえるんだよ、俺には。

レオ　　すまなかった。君のことに何も気付かなかった。
すまなかった。

マックス　（自分に）くっそ！

ナナ　　ああ、なんだか私、もう疲れちゃった。どうでも
よくなってきた。

シヨコラ　そんな悲しいこと言わないでよ、お願いだから。

ナナ　　シヨコラはいいね、まだ希望があつて。

シヨコラ　あなたにだってあるわよ。

ナナ　　……たぶん、私はここで死ぬんだと思う。

シヨコラ　だから、そういうふうにするのはやめてよ。

ナナ　　ありがとね、私のために悲しんでくれて。

シヨコラ　私だって、どうしたらいいか、わからないのよ。

シヨコラ、しゃがみこんでしまう。

レオ　　運命というのはむごいな……。

チャコ　何の前触れもなくやってくるのね、不幸って。

レオ　　乗り越えるべき壁が、死だなんて、あまりに高い
壁だよ。

チャコ もう、完全にあきらめてるのね。

レオ あんたもそうだろう。それとも、まだ希望が？

チャコ 奇跡……もし、そんなものがあつたら、助かるかもね。

レオ 奇跡か……。

リリイ 奇跡に頼るしかないか……。

ビート なんだか寂しいな。奇跡しか頼りがないなんて。

ジョン まだ、三日ある。まだ三日……。

コツコツコツと靴音がして、檻の前で止まる。

レオ 誰だ？

ジョン 誰かの飼い主じゃないのか？

シヨコラ ……私、私のご主人様、やっと、やっと来てくれた。

暗転。

キーンコーンカーンコーンと、チャイムの音。

明りがついて、七日目。

すべての犬たちが横たわっている。

その犬たちの中にシヨコラはいない。

チャコ シヨコラ、いまごろどうしてるかしらねえ。

ビート うまい飯でも食べてるんじゃないですか？

リリィ うらやましい。ペディグリーチャムだあ……。

エルビス 最後の晩餐に出してもらいたいね。ペディグリー

チャム。

レオ 最後の晩餐か……。

マックス 辛気臭えなあ。

ジョン 仕方ないだろう。もう七日目なんだ。

ビート 今日が最後の日なんて信じられないなあ。

エルビス 一縷（いちる）の望みを持って、思い切って出てきた先が死だったか……。

ナナ 理不尽の塊。

マックス 理不尽と言えば、ジョンだ。

ジョン もう、その話はやめてくれないか？

マックス 暇つぶしだよ。あいつはいったい何をしに来たんだ？

ジョン 私の主人をあいつ呼ばわりはやめてくれたまえ。
マックス おかしいだろ。ここまで来て、あなたの顔を眺めて、そのまま帰っていくなんて。

ジョン だから、何度も言ったじゃないか。ご主人にはご主人様の事情があるんだ、と。

チャコ 本当に引き取るつもりだったのかしらね。
ジョン そうじゃなかったら、ここまで来ないだろう。

マックス でも、心変わりした。
ジョン 一度でも、顔を見せてくれたのはありがたいことだよ。

エルビス 僕なら恨むね。変な期待を持たせた分だけ罪だから、ご主人にはご主人の都合があったんだよ。

マックス はっきり言っちゃえよ、もう最後なんだから。恨んでますって。

ジョン 恨みはしないよ。悔しいがね、ちよつと。

ナナ 天国と地獄は紙一重。

ビート ナナちゃんは、ここ数日、かなり厳しいね。

ナナ そりゃそうでしょ。こんなことになってるわけだから。かと言って、病気のご主人様が悪いわけでもなく……。

マックス 恨まずにすむってことは幸せなことだぜ。

ビート そうだね、幸せなことだと思うよ。

ナナ 何が幸せなのよ。死んじやうのに。

レオ どうにかしてやりたいもんだが、どうにもできない。
い。

チャコ 何もする必要のないのよ、ここまで来れば。

ビート 死ぬときって苦しいのかな……。

マックス レオ、俺たちはどんな死にかたをするんだ？

レオ 知らんと言ってるだろ。

マックス 嘘つけ。

チャコ そうね、そろそろどんな死に方をするのか知って
おいてもいいかもね。

一同 ……。

レオ 言わないよ、私は。これだけはね……。

ジョン　今さら、何を隠す必要があるんだ。知らないほうが、恐ろしさが増すってもんだ。

レオ　知ってもいやなものなんだ！

マックス　全部、白状しちまえよ。面倒くせえ。

レオ　投げやりになるな。

ビート　そんなこと言われても、もう何もかもどうでもよくなるよ。

チャコ　今までいろいろ悩んでたことが馬鹿みたいに思えるわ。どうせ、全部なくなっちゃうものだったんだ。
だ。

レオ　死ぬ間際までわからないもんだね……。

ビート　だったら、どんな死に方をするのか、教えてくれないもいいのに。

レオ　君は死ぬまで私を悩ますつもりか？

マックス　全部なくなるって言ったじゃねえかよ。

レオ　だから、教えなくたっていいじゃないか。どうでもいいんだから。

マックス　チッ！

ジョン　レオは最後まで頑固だ。

レオ 悪かったね、これが私の性格でね。

ジョン、仰向けになって、天井を眺める。

ジョン もう空を仰ぎ見ることもしかないか……。

リリイ この部屋、蛍光灯が並んでる。

ジョン つまらん空だ。

リリイ 空じゃないでしょ。これは。

ジョン そうだ、ご主人様と一緒に海に行った時のことを思い出したよ。真っ青な空の下で、砂浜を駆け巡った。

ナナ 私、海を車の中から、見たことがある。

ジョン 海は最高だぞ。風も気持ちがいい。心を解放してくれる。自然の宝物だ。

エルビス 海か。行ってみたかったな。

レオ 最後によぎるのは、思い出だな。

ジョン いい思い出ばかりだ。悪い思い出なんて、思い出したくもない。

一同、微笑する。

マックス

俺もご主人様の腕を噛んだ感触がたまらなくて、他にもたくさんの人間を噛んだ。その挙句がこのザマだ。

ジョン

（マックスに）話を折るのが好きだな、君は。悪い思い出は思い出したくないと言ってるんだ。

マックス

ガブリとやった感触がたまねえんだよ。やっぱり俺たちは肉食動物だな。悪い思い出じゃない。

レオ

私もよく骨のおもちやを噛んでいたよ。ゴムだったが、噛むと気分が落ち着く。

ナナ

私たちの祖先ってオオカミらしいですよ。

エルビス

だから、遠吠えをする。仲間に聞こえるように。

チャコ

（エルビスに）あらっ、意外。孤独を愛するオスだと思ってたわ。

エルビス

誰にも邪魔されない時間は自分だけの時間に酔いしれることができる。でも、仲間といたいと願うときもある。

ナナ

エルビスはどうして飼い主の家から出てきたの？

エルビス 僕の主人は機嫌が悪くなると、僕を蹴ったり、殴ったり、ゴルフバットで叩く。ここにいたらいつか殺される、そう思って逃げたんだ。

チャコ 虐待を受けてたわけね。

エルビス そういうことだ。

ジョン 不思議なもんだ。明日はないっていうのに、僕の心はひどく落ち着いている。こんなものだろうか……。

レオ あきらめがついたってことだろう。

ジョン どうでもいいや。人間社会も犬社会も。

チャコ そうね、もうどうでもいいわね。

ビート それにしても、ジョン、あんたのご主人はひどいよ。何をするためにここまで来たんだ。自分で捨てておいて、どうして顔を拝みに来るんだ？

ジョン わからないよ。思い出したくない。もうどうでもいい。

エルビス 君は助かるかもしれない。

ジョン どうして？

エルビス そんな予感がする。

ジョン 最後の日におかしな希望を持たせないでくれないか。

ナナ 最後の日……。

チャコ ナナは、不憫だわ。若すぎる。

レオ そうだな、私のような老犬はどうでもいいが。

ビート 何とかしてあげたいけど、どうすることもできない。

ジョン マックスもまだ若い。

マックス 最後にガブリと、係員に噛みついてやるさ。思い切り、血が出るほど噛んでやる。恨みを込めて。

エルビス 人間はやりたい放題だな。犬は人間様のいいなりで命まで奪われる。

チャコ 恨むべきかもね、どんな事情があろうとも……。

ナナ 力には勝てないのね。圧倒的な力には。良いとか、悪いとか、全然、関係ないんだ。

ビート 弱肉強食が自然の掟だとしても、とても納得できない。

レオ さて、私たちは何を叫んで旅立とうか？

チャコ 一匹でも、私たちと同じような境遇に立つ仲間が

減りますように。

ジョン　　そうだな。

リリイ　　うん、それでいい。

ゴウン、ゴウンと機械音。

マックス　まったく耳障（ざわ）りな音だな。

レオ　　冷房でもかかってるんだろう、夏ももう近いから。

マックス　そうだとしても、俺たちを脅迫しているように聞こえるよ。

リリイ　　脅迫？

マックス　死ぬぞ、死ぬぞ、つてさ。

ジョン　　もうよそう。あきらめも肝心だ。

マックス　どうして死ななくちゃいけないんだ！

レオ　　お前さんが言わなくても、みんな思ってることだ。

マックス　だったら、どうして叫ばない。これはおかしい、とどうして叫ばないんだ？

レオ　今さら、吠えたところでどうにもならんだろ。

マックス　悔しいなあ、俺は本当に悔しいよ。

エルビス　ああ、私も悔しさでいっぱいだ。

チャコ　仕方ない、そんな言葉で片付くことじゃないわね。

リリイ　死にたくない、私。

ナナ　私も。

ジョン　何か僕たちが生きた証を残そう。

チャコ　生きた証？

ジョン　そう、僕らは生きていたんだ、と。

一同　……。

マックス、ゆっくりと爪痕を残すように床を掻き始める。

ジョン、マックスの様子を見て、床を掻きはじめる。

全員、無念の思いを彫り込むように床を掻く。

コツコツと足音が聞こえてくる。

一同、檻の前に立っている人間を、仰ぎ見る。

一際、大きくなる機械音。

暗転。

舞台前に立ちすくんでいるジョン。

ジョンの少し後ろにシヨコラの姿がある。

二匹の後ろに、マックス、ビート、リリ

イ、ナナ、チャコ、レオがいる。

レオ　よかったじゃないか、ジョン。

ジョン　ああ、ありがとう。

ビート　ご主人様は何て？

ジョン　新しく引っ越す場所は犬は飼えなかったらいいんだ。でも、特別に大家さんから許可がもらえたらいい。僕は引っ越しが終わるまで君たちと一緒にだった。

マックス　こっちは苦しい思いをしたよ。

リリイ 二酸化炭素で窒息死なんてあり？

エルビス もう少し、優しく殺してもらいたかったよ。

ジョン すまない、みんな。

レオ どうして謝るんだ？

ジョン 僕は、生き残ってしまった……。

エルビス 幸運だよ。助かってよかった。

ジョン 無念だなあ、苦しいよ。

チャコ ショコラ、聞こえる？

ショコラ チャコ……。

チャコ 助かってよかったわ。あなたが助かって本当によかった。

ショコラ ごめんさない。

チャコ 謝ることなんてないのよ。

ショコラ ……みんな、ごめんなさい。

ナナ ショコラ、たまには私のことも思い出してね。

ショコラ 忘れないわ、あなたのことみんなのことも。

ジョン ナナ、君はまだ若かったのに……。

ナナ 運命ですよ。

ジョン 納得できないよ。運命で片付けたら、すべてが許

されてしまうじゃないか。

ビート 死んだ僕たちは、そう思うしかないんですよ、運命だって。

レオ 私たちの分まで、いい思い出をたくさん作ってくれ。

マックス そうだ、俺たちが絶望の中で最後に見出した希望は、たくさんのいい思い出だった。

チャコ 何にも変え難い、いい思い出を、たくさん……。

ジョン ……天国に行けそうか？

レオ 当たり前だ。

ジョンとシヨコラ、天を仰ぎ見る。

強い光がジョンとシヨコラを照らして、やがて消えていく。

【幕】